

元和四年八月

右五人衆五恐四誤

松浦肥前守殿

長谷川左兵衛殿

追而唐船之儀ハ、何方江著候共、船主次第於其所可賣買旨被仰出候、

日向國
縣河港
細島港

薩摩國
唐港

〔日向經緯略記〕日向州略○中 西ヨリ流レ來ルヲ阿加河ト云ヒ、東ヨリ來ルヲ小出河ト云フ、此二ツ

ノ河南ニ流レテ、八戸村ノ西邊ニ來テ、合シテ一河トナリ、南流シテ栗野名村ト河島村ノ間ヲ流

レテ、遂ニ此ノ灣内ニ注グ、此ヲ以テノ故ニ、此海灣ハ頗ル運送便利ノ港ナリ、此ヲアガ縣河ノ港ト名

ケ、亦東海港トモ云フ、又此ノ縣河港ノ南ミ五里許ニシテ、細島ト云フ處アリ、此處モ又一箇ノ海

灣ニシテ、天然ニ成レル海港ナリ、凡ソ此ノ隣國ニ、細島ヨリ便要ナル港ハアルコトナシ、故ニ日

向一國ノ諸侯、關東ヘ交代ノ砌リハ、上ルモ下ルモ皆此ノ處ヨリ船ヲ出入ス、飯肥ノ伊東侯ナド

ハ、自國ニモ港ハ數ケ處アレドモ、此處マデ四日路來リテ船ニ駕ルコト常例ナリ、是ノミニテモ

此ノ處ノ便要ナルヲ知ルベシ、故ニ此ノ細島ハ、諸國ノ海船輻湊シ、日州第一ノ都會ナリ、

〔薩藩名勝考一〕唐湊即坊津、方角集、○中略

凡港口の廣三町四十間餘、直に西に向ひ、東に入て、更に南に曲り、下濱深浦の曲に至り、凡十有二

町、其中に突出する處を鶴背と云、大坊より港中に出る事二町餘、森々たる樹間に朱の玉墻あり、

素箋鳥尊を祀て、祇園宮と稱す、此港の山形鶴の翔るに依稀するをもて、舞鶴の浦とも、嘴の浦と

も云、因て其長く南出るもの即鶴崎とは稱る也、又鶴嘴の東灣は下濱、南灣をば大坊と云、凡港中

海の深サ四十有餘尋より三十六尋に至る、故に口狭くして入遠く、底深して中廣し、回岸連り抱

き唯西一方を欠く耳、大瀛に接すといへども、別に一の瀦海となる、○下

〔地理纂考十一薩摩〕川邊郡坊津村